1960年創立
国際ロータリー 第2510地区 日本 The Rotary Club of Otaru South. District No.2510
通巻 第2648号
39
2014年4月25日(金)発行

小樽南ロータリークラブ会報

ホームページ http://rid2510.org/otarusouth/
昭和35年2月5日 ●例会場/ニュー三幸 ●例会日/毎週金曜日12時30分 ●事務局/〒047-0032 小樽市稲穂1-3-6 ☎0134-33-3500

●2013-2014年度 Rotary International テーマ

Engage Rotary Change Lives

「ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を」

ロン D. バートンRI会長

強調事項 RI第2510地区 安孫子 建 雄 ガバナー（江別RC）

- ロータリーの基本を見つめ 変革するロータリーを実践しよう
- 「RIテーマ<ロータリーを実践し みんな豊かな人生を>の理解を深めクラブと地域そして世界で活躍するロータリアンになろう」

●今日 4月25日(金) のプログラム

◎外部卓話「おたるくらし」
（小樽の魅力再発見）
スピーカー 佐山 公一 氏(小樽商大教授)

●来週 5月2日(金) のプログラム

◎休会となります

●再来週 5月9日(金) のプログラム

◎国際奉仕委員会担当例会
スピーカー 白畑港湾室長

●第38回例会報告 4月18日(金) 「松前神楽鑑賞」 職業奉仕委員会担当移動例会 本間(清)委員長 於 小樽マリンホール

■会長報告■ 吹越会長

・本日の例会は、場所も開催時間も変更になりましたが当ホールで「職業奉仕委員会担当例会・松前神楽」が上演されますとても楽しみしております。「委員会・同好会報告」・「出席・まごころ箱」報告等来週にさせていただきます。

■幹事報告■ 山村幹事

・余市RC＝4／30（水）休会・5／14（水）移動夜間例会「お花見例会」点鐘18:30～ 場所：ホテルエーヴランド

・小樽雪あかり実行委員会より協賛へのお礼状が届いております。

■メーキャップ受付■ 4月18日分

花和 嘉貴氏、下中 博文氏、平松 正人氏
宮本 孝雄氏、村住 俊幸氏、堀岡 秀之氏
小松田 哲弘氏（小樽RC）

■例会プログラム

松前神楽鑑賞

◆職業奉仕委員会担当移動例会

本間(清)委員長

◆会長挨拶

会場の皆様今晩は。本日、ここに「松前神楽公演」にあたりご案内申し上げましたる夜分にも拘わらず、このように多数の方のご来場を賜り誠に有難う御座います。

私ども小樽南ロータリークラブではこのたび市民のみな様に長い間小樽に伝えられている伝統芸能の魅力に触れていただきたく松前神楽の公演を企画今夜実現することが出来ました。この松前神楽は「北海道無形民俗文化財」として指定されている神楽であります。北海道（蝦夷）の開拓の祈りを込めて創られた神楽であり、350 年の歴史を持ちこの小樽・後志に伝えられて 120 年を越えています。古しえより、人々の暮らしに密接に関わり合いながら人から人へと受け継がれてきた神楽であります。神楽の持つ奥深い世界に一層の興味を持っていただければと思います。

以上、公演にあたっての御挨拶といたします。どうぞ最後までお楽しみ下さい。

松前神楽は、旧松前藩が、かつて城中で行わせたところから「お城神楽」ともよばれ、江戸時代に神職によって盛んに行われたものが後に広がり、現在では、函館市、小樽市、松前郡松前町、福島町はじめ北海道の日本海沿岸地域や道南地域など広い地域で伝承され、各地の神社例大祭等で公開されている。

伝承される演目は「榊舞（さかきまい）」「鈴上（すずあげ）」「福田舞（ふくでんまい）」「二羽散米舞（にわさごまい）【庭散米舞】」「四箇散米舞（しかさごまい）」「三番叟舞（さんばそうまい）」「翁舞（おきなまい）」「神遊舞（かみあそびまい）」「七五三祓舞（しめはらいまい）」「獅子舞（ししまい）」など数多く、それらの内容や名称などに各伝承地で若干の違いがあるが、いずれも神事性、儀式性が強い神楽であり、余興的な部分が少ないことが共通の特色である。この松前神楽は、北海道において江戸時代以来の伝統を引き継ぎ、さらに道内各地で、それぞれの地域の特色を加えつつ広く行われるようになったもので、芸能の変遷の過程および地域的特色を示す重要なものである。

（文化庁国指定文化財等データベースより抜粋）

●松前神楽小樽ブロック保存会（六団体）

小樽松前神楽保存会・神恵内松前神楽保存会・鬼鹿松前保存会・寿都松前神楽保存会
松前神楽瀬棚保存会・後志松前神楽会

松前神楽観賞会
スナップ

本日の演目

◆神遊舞
二人の武人が弓矢を持って四方の悪魔を退散し、直ぐ正しい心　心の返す意の舞

◆翁
息災延命、立身出世を祝って舞う福禄寿の備わった最も目出度い舞

◆二羽散米舞
神の恵みの米をまき散らして五穀豊穣を祝う舞

◆三番叟舞
家門の隆昌と子孫繁栄を祝福した舞

◆太平楽盆舞【越後大々神楽（特別出演）】
道内で唯一、小樽にだけ残っている貴重な舞であります。越後の国一の宮として古くから信仰を集め、新潟県唯一の大社として弥彦山に鎮座する弥彦神社には無形文化財として指定された大々神楽があり、太平楽盆舞はその一つで越後の国らしい独特の情緒を表した舞であります。

◆獅子舞
この獅子舞は始めから終わりまで十二回手が変わり、御稜威舞・獅子五方・獅子鈴上・面足獅子と四つの舞からなっています。

伝統芸能の保存に力を尽くしている後志六地区の保存会によって、軽妙なお面を付けた踊り手が、素早い動きの中で舞台いっぱいに各種の舞を次々に披露。弓を放ったりし獅子舞では鑑賞者に楽しんでもらうため、多少道化して子供から大人までの踊り手は、見物客の笑いを次々に誘っていました。

本間宮司（職業奉仕委員長）は、福禄寿の備わった最もめでたい舞「翁舞」を披露し、「無形文化財は、形では残らない。私たちが歳を取る前に次の世代に伝えていこうと思い、こういう場を用意して広げています」と、伝統芸能の保存の世代交代に期待しておりました。

●記事担当/東会員